

## ファーストオリゼ®プリンス®スピノ粒剤 6

- 「は種前」または「は種時」処理により水稻の主要病害虫であるいもち病、イネドロオウムシ、イネミズゾウムシ、フタオビコヤガを同時に防除できます。
- 特長： ● 「は種前」または「は種時」処理で、長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。
- 異なる殺虫メカニズムのプリンス（フィプロニル）とスピノ（スピノサド）が組み合わさることでユニークな相乗効果が発揮され、優れた効果を示します。

ファーストオリゼは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標、  
プリンスはBASF社の登録商標、スピノ TMはザ・ダウ・ケミカル・カンパニーまたはその関連会社商標です。

有効成分	スピノサド・・・0.75% フィプロニル・・・0.60% プロベナゾール（化管法第1種）・・・20.0%	包装	10kg×1
性状	淡褐色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	スピノサドを含む農薬の総使用回数	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 イネドロオウムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	は種前	1回	育苗箱の床土に均一に混和する。	1回	1回	2回以内 (移植時までの 処理は 1回以内)
	いもち病 イネミズゾウムシ フタオビコヤガ イゴ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	は種時 (覆土前)	1回	育苗箱の床土に均一に散布する。			

### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使い切ること。
- (2) 本剤を育苗床土に混和する場合には薬害を生じる場合があるので、下記の注意事項を遵守すること。
  - 1) 山土、畑土等を使用する場合は、十分に乾燥させてから使用すること。
  - 2) 粒剤を混和した床土は高温多湿での保管をさけ、すみやかに使用すること。
  - 3) 粒剤が破砕されるような過度な混和はさけること。
- (3) 本剤処理後の低温で生育抑制を生じるおそれがあるので温度管理に注意し、適切な育苗につとめること。
- (4) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- (5) 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出したりしないよう水管理に注意すること。
- (6) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- (7) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合は使用をさけること。

- (8) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤食などのないように注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) フィプロニルによる中毒に対しては、動物実験でフェノバルビタール製剤の投与が有効であると報告されている。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (6) 夏期高温時の使用をさけること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。